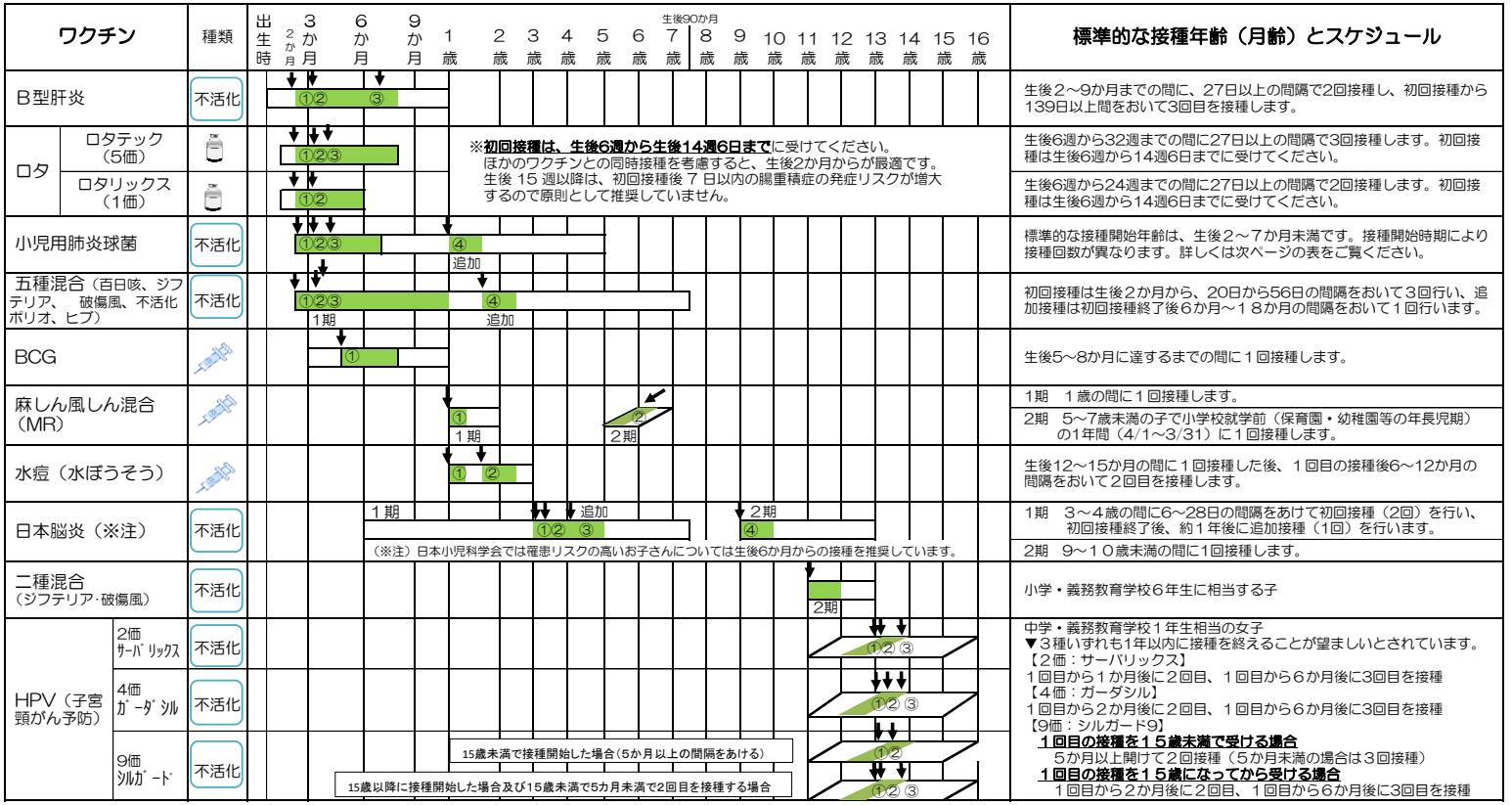
～予防接種の対象年齢と受ける時期のめやす～

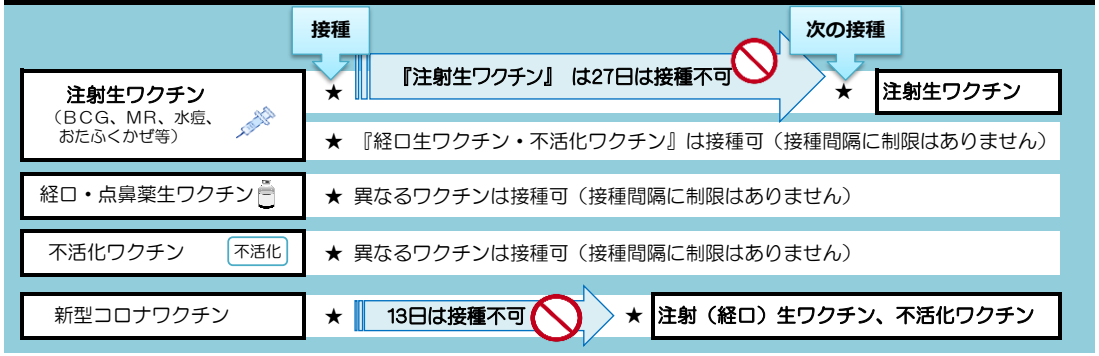
定期予防接種

国や自治体が「受けるように努めなければならない」と強くすすめている予防接種です。規定の年齢での接種であれば費用は原則無料です。
（指定医療機関外で接種する場合は、一部自己負担になる場合もあります。）

□…無料で接種を受けられる年齢　■…接種可能年齢のうち、受けるのが勧められている期間　↓…好ましい接種時期



異なるワクチンの接種間隔について



同じ種類のワクチンの接種間隔について

同じ種類のワクチン接種を複数回受ける場合は、ワクチンごとに決められた間隔を守る必要があります。上記記載の「標準的な接種年齢（月齢）とスケジュール」を参考にしてください。

ワクチンの種類

ワクチンは、感染症の原因となるウイルスや細菌をもとに作られています。成分の違いから、大きく「生」と「不活化」に分けられます。

生ワクチン

毒性を弱めた生きた病原体でできたワクチンです。接種することで病原体に軽く感染したような状態になりますが、接種後の免疫は強くなります。生ワクチンには、注射生ワクチンと経口生ワクチンがあります。

注射生ワクチン　経口生ワクチン　点鼻薬生ワクチン

不活化ワクチン

死んだ病原体や病原体の一部を集めたもの（病原体ではなく、免疫をつけるのに必要な成分のみ）でできています。体内で病原体が増えないため、免疫はつきにくく、複数回の接種が必要です。

不活化

任意予防接種

個人で接種するかを判断し、費用も自己負担となる予防接種です。健康保険は通常適用されません。

ワクチン	種類	接種スケジュール
おたふくかぜ	注射生ワクチン	対象年齢は1歳以上で接種することができ、1回接種をします。日本小児科学会では2回の接種を推奨しています。
三種混合・不活化ポリオ（追加）	不活化	日本小児科学会では、3種混合と不活化ポリオワクチンもMR2期と同時期に接種することを推奨しています。
（※）季節性インフルエンザ	不活化	生後6か月以上で接種することができます。13歳未満は2～4週間隔をあけ、2回接種します。
	生ワクチン	経鼻弱毒生インフルエンザワクチン「フルミスト点鼻液」は、2歳から接種することができ、1回接種します。
新型コロナウイルス	mRNAワクチンなど	医療機関にご相談ください。

（※）季節性インフルエンザの助成については、担当課にお問い合わせください。